



Title	アイヌ語のいくつかの基礎語彙の意味について (2)
Author(s)	佐藤, 知己
Citation	北海道大學文學部紀要, 45(3), 91-120
Issue Date	1997-03-28
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/33683
Type	departmental bulletin paper
File Information	45(3)_PL91-120.pdf



アイヌ語のいくつかの基礎語彙の意味について(2)

佐 藤 知 己

0. はじめに

本稿は佐藤(1996)に引き続き、アイヌ語の基礎語彙の意味を、用例と話者からの報告を基に明らかにしようとするものである。より具体的には、用例から立てた仮説を基に話者に質問を繰り返し、いわば話者との共同作業によって語の意味がどのような体系をなしているのかを明らかにしようとする試みである。

ここで、意味記述における話者の役割について触れて置きたい。言語記述の他の側面と同様に単語の意味(以下では意義と呼ぶ)も、多くの用例から帰納的に記述されるべきものであることは言うまでもない。話者の内省は、速断的、主観的でしばしば一貫性を欠き、一般性に乏しいものである。しかしたとえば、類義語と思われるものが複数ある場合に、相互に置き換えが可能であるのか、さらには置き換え可能な場合でも、文の意味に何らかの差異がないのかどうか、等の点について詳しく知るためには、話者からの報告が不可欠である。さらに言うならば、今後、いかに言語理論が発達したとしても、このような話者の知識に頼ることなしに、語と語の共起関係について完全な予測を立てることは不可能であろうと思われる。多くの場合、この種の情報は、母国語話者にとってはあまりにも自明なために意識されることが少なく、辞書や文法書の中でも取り立てて扱われることが少ないのが普通ではないかと思われるが、アイヌ語のように話者や記述そのものがそれほど多くない言語については、この種の情報を意識的に引き出し、客観的な記述を残

す努力が今後も必要であろう。

なお、調査の過程で、疑問の点は再度時を改めて質問して偶然的な要因をできるだけ避けるよう意図したが、一見矛盾する報告もある。それも今後の問題点として併記した。以下で扱う資料は、すべて沙流方言の話者である上田トシ氏（1912 年平取町ペナコリ生、現在同町旭在住）によるものである。上田氏のご教示に深く感謝申し上げる。

1. 「巻く」, 「畳む」, 「まくる」, 「めくる」などと matu など¹⁾

敷物の「ござ」のことを toma という。toma は sikina (ガマ), yayankina (茅?) で作る。sikina で作ったものの方が火に強いので上等だ。toma のうち、炉の周りに敷いて座るものは apesamso という。apesamso はいつも敷いてあった。apesamso には模様は付いていない。ござの中でも模様の付いたものは, citarpe という。citarpe はいつも敷いてあるものではない。儀式の時に使う。昔の家は、ガラスがない時代は窓に puyarotki (すだれ) をかけ、昼間はくるくる巻いて紐でしばって固定して置き、夜はほどいておろした。

すだれを「まくる」ことは tarara という。

- (1) ponno puyarotki a-tarara wa orowa
 少し すだれ INDEF. TR. SUBJ.-上げる て それから
 hehewpa-an
 のぞく-INDEF. INTR. SUBJ.
 「我々は少しすだれを上げてのぞいた」

一方、tarara は、窓のすだれだけでなく、床に敷いたござを「まくる」という意味でも使える。

- (2) kasi ta rok-an apesamso emkoho
上 に 座る-INDEF. INTR. SUBJ ござ 半分
pakno ku-tarara wa ku-hunara
位 1SG. SUBJ.-上げる て 1SG. SUBJ.-探す
「その上に人が座るござを半分まで私はまくって探した」

すだれを「まくる」ことは、matu とも言う。

- (3) opitta puyarotki matu
全部 すだれ まくる
「すだれを全部まくれ」

tarara は「少し開ける」時、matu は「すっかり開ける」時に用いると。ちなみに、下ろす場合は pita (ほどく), racitkere (掛ける) を使う。

また、ござを「まくる」という意味では、cuppa という語も使う。

- (4) kem ku-tursere wa ku-hunara yakka,
針 1SG. SUBJ.-落とす て 1SG. SUBJ.-探す ても
ku-pa ka somo ki hi kusu, apesamso
1SG. SUBJ.-見つける も ない する こと ので ござ
ku-cuppa wa ku-hunara
1SG. SUBJ.-まくる 1SG. SUBJ.-探す
「針を落として探しても見つからないのでござをまくって私は探した」

cuppa するのは「かんたん」だが、間にしわが入ったりするから、pirkano matu する。matu は「のぼしなさい」と言うことだ。cuppa は「くるくる巻いてまくっていく」ことだ。matu は「簡単にたたむ」こと。「ちゃんと巻いていく」ことは ukokarkari という。この場合、cuppa の代わりに matu を用

いて、

(5) pirkano matu wa inkar

よく まくる て みる

「よくまくってみなさい」

のように言えないことはないが、cuppaの方が「言いやすい」。これに対して、「布団をたたむ」場合には matu を使ってもおかしくない。

(6) huton pirkano matu wa osiire or un yanke wa anu yan

布団 よく まくる て 押入れ 中 へ あげる て 置くなさい

もつとも、布団を「あげる」場合、cuppa も使える。cuppa は「まくりあげておけ」、matu は「ちゃんとたたんでおけ」ということだ。二つ折りにすることも matu、四つ折りすることも matu といっている。しかし、cuppa と matu の違いは自分でもそんなにはっきりしない。

しかし、次のようには言える。どうも、matu に比べて「おそまつにしている」ことが cuppa のようだ。

(7) cuppa somo ki no pirkano matu wa ukao yan

まくる ない する て よく 畳む て しまう なさい

「(雑に) まくるだけでなく、きちんと畳みなさい(?)」

また、cuppa を使って次のようにも言える。

(8) ukokarkari somo ki no pirkano cuppa wa anu yan

巻く ない する て よく まくる て 置くなさい

「(雑に)ぐるぐる巻きにしないで、きれいにまくって置きなさい(?)」

豆をござの上においてより分ける仕事をしている時、一時休憩する場合など、次のように言うことがある。豆がござからこぼれ出ないように、ござの縁をまくっておけ、という意味だ。

- (9) ponno ponno cuppa wa anu yan
少し 少し まくる て 置くなさい
「少しだけまくって置きなさい」

cuppa は「着物をたたむ」という時にも使う。

- (10) amip pirkano cuppa wa ukao yan
着物 よく 畳む て しまいなさい
「着物をきれいに畳んでしまいなさい」

この場合、matu はおかしい。着物について matu を使うと、「着ている着物を開く」というような別の意味になると思う。

cuppa は着物ばかりでなく、「掃除するから座布団をしまえ」という場合にも使える。

- (11) kasi ta e-an pon huton, ku-munnupa kusu ne
上 に 2SG. SUBJ.-いる 小さい 布団 1SG. SUBJ.-掃く つもり だ
na, cuppa wa ukao
よ まくる て しまう
「その上に座る座布団、掃除するよ、まくって、しまえ(?)」

この場合、matu を使うと、「なんぼ折りかにしてしまう」という意味になる。cuppa は敷物をしまうと言う時に使うが、「洗濯物をしまえ」という時には cuppa は使えない。cuppa は「まくっておく」という意味だから、使うと

おかしいことになる。その場合には ahunke 「入れる」を使う。

- (12) a-satke wa an pe ahunke (cuppa)
INDEF. TR. SUBJ.-干す て ある もの 入れる
「干してあるものを入れろ」

matu は布団等を「あげる」という場合だけでなく、「着物の裾をまくる」という時にも使う。

- (13) ku-mi wa okay pe ku-matu wa
1SG. SUBJ.-着る て いる もの 1SG. SUBJ.-まくる て
ku-petkasu
1SG. SUBJ.-川を渡る
「私は着ている物をまくって川を渡った」

この場合、matu のかわりに cuppa を使っても同じ意味だ。

- (14) ku-petkasu kusu ku-mi wa okay pe
1SG. SUBJ.-川を渡る ので 1SG. SUBJ.-着る て いる もの
ku-cuppa wa ku-petkasu
1SG. SUBJ.-まくる て 1SG. SUBJ.-川を渡る
「川を渡るのに着ている物をまくって私は川を渡った」

「裾をまくる」は horikiraye ともいう。

- (15) ku-horikiraye wa ku-petkasu
1SG. SUBJ.-裾をまくる て 1SG. SUBJ.-川を渡る
「私は裾をまくって川を渡った」

反対に、「裾を下ろす」は ranke という。

- (16) e-komo amip ranke
2SG. SUBJ.-折り曲げる 着物 下ろす
「お前のまくった着物下ろせ」

「袖をまくる」には komo を使う。「裾をまくる」にも使う（前例参照）。

- (17) e-tusaha pirkano komo
2SG. SUBJ.-袖 よく 折り曲げる
「お前の袖、よくまくれ」

この場合、matu といってもいい。

- (18) e-tusa parpok teyne na. ponno matu
2SG. SUBJ.-袖 口元 濡れる ぞ 少し まくる
「お前の袖口がぬれるよ。少しまくれ」

反対に、「袖を下ろす」には turi という。

- (19) mean na. pirkano e-tusaha turi.
寒い よ よく 2SG. SUBJ.-袖 伸ばす
「寒いよ。ちゃんと袖を下ろしなさい。」

板や畳は matu できない。固くて厚いから matu も cuppa もできない。puni
(起こす) なら使える²⁾。

- (20) ita ku-puni wa corpokke ku-nukar
板 1SG. SUBJ.-起こす て 下 1SG. SUBJ.-見る

「板をめくって私は下を見た」

また、物体が釘などで固定されている場合は、mesu（はぐ）を使う。

- (21) ita corpok ta nep ka an ya ku-nukan rusuy kusu ne ita
板 下 に 何 か ある か 1SG. SUBJ.-みる たい ので その 板
ku-mesu wa ita corpok ku-nukar
1SG. SUBJ.-はぐ て 板 下 1SG. SUBJ.-みる
「板の下に何があるか私は見たいのでその板をはいで板の下を見た」

- (22) a-kotukka wa an kanpi mesu
INDEF. TR. SUBJ.-付ける て ある 紙 はがす
「人が張ってある紙をはがせ」

本をめくる、には pirasa を使う。

- (23) a-pirasa wa a-nukar
INDEF. TR. SUBJ.-めくる て INDEF. TR. SUBJ.-見る
「人がめくって見る」

soso は「はぐって取る」こと。

- (24) kanpi a-soso
紙 INDEF. TR. SUBJ.-破り取る
「人が紙を破り取る」

以上をまとめると、cuppa も matu も、「布やごさのような薄くてある程度の面積を持った物体の一端を持ち上げ、裏面を表面に密着させて³⁾占有面積を小さくする」、という点では共通しているが((1), (2), (6)参照), matu の場

合は芯になる部分の幅が比較的大きく、また、密着の度を高くして空洞が生じないようにする、という制約があるのに対し、cuppa にはそのような制約がないので、matu よりも「不注意な動作」という含意を持つものと考えられる((7))。また、ukokarkari は、matu や cuppa が持つ「折り目」の可能性をほぼ完全に排除してしまうので、cuppa に比べてもさらに「不注意な動作」という含意を持つものと考えられる((8)参照)。他方、matu と cuppa には、「占有面積を小さくする」という特徴から、前述の動作を行うことによって、「占有していた部分を露出させる」というやや異なる意味が派生する((13), (14)参照)。特に、着用している衣服に対しては、matu が慣用的に「露出」の意味のみで用いられる、ということのようである((13), (18)参照)。これらの「露出」の意味の cuppa と matu に対しても「注意の度合」という特徴の差異があるかどうかは不明である。この場合、この特徴が中和されている可能性もあると思われる(なお、mesu, soso については次節で考察する)。

2. 「割る」、「破る」、「裂く」などと perpa, yasa など

薪を割る、という場合には、perpa という。

- (25) tanto anakne ni ku-perpa
 今日 は 木 1SG. SUBJ.-割る
 「今日は私は薪を割った」

ガラス、卵、白を割る、という場合にも perpa という。

- (26) suma ani garasu a-perpa
 石 で ガラス INDEF. TR. SUBJ.-割る
 「石で人がガラスを割る」

- (27) tuki ku-perpa

1SG. SUBJ.-割る

「私は盃を割った」

- (28) tamanko ku-tursere wa ku-perpa

卵 1SG. SUBJ.-落とす 1SG. SUBJ.-割る

「卵を私は落として割った」

- (29) nisu a-perpa

臼 INDEF. TR. SUBJ.-割る

「人が臼を割った」

しかし、せんべいを割る、のような場合には perpa はおかしい。yasa または kekke を使う。

- (30) hekattar poronno oka hi kusu, kuwasi ne yakka

子供 たくさん いる こと ので 菓子 でも

ku-yasa wa...

1SG. SUBJ.-割る て

「子供がたくさんいたので、菓子も私は割って……」

- (31) senpe? niste nankor kusu a-kekke

せんべい 固い だろう から INDEF. TR. SUBJ.-割る

「せんべい? 固いだろうから、人は割る」

また、食べるために卵を割る、という場合には perpa ではなく、yasa を使う。

- (32) tamanko k-e rusuy kusu ku-yasa
卵 1SG. SUBJ.-食べる ので 1SG. SUBJ.-割る
「卵を私は食べたいので割った」

yasa は、クルミやカニに対しても使えるが、イカ、パンにも使える。

- (33) ninum ku-yasa wa k-e
クルミ 1SG. SUBJ.-割る て 1SG. SUBJ.-食べる
「クルミを私は割って食べた」

- (34) amuspe ku-yasa wa k-e
カニ 1SG. SUBJ.-割る て 1SG. SUBJ.-食べる
「カニを私は割って食べた」

- (35) ika a-yasa wa a-e
イカ INDEF. TR. SUBJ.-裂く て INDEF. TR. SUBJ.-食べる
「人はイカを裂いて食べる」

- (36) pan a-yasa wa a-e
パン INDEF. TR. SUBJ.-裂く て INDEF. TR. SUBJ.-食べる
「人はパンを裂いて食べる」

着物を破くという場合に perpa は使わない。これに対し、yasa は「着ているものをぽっと裂く」という意味でも使える。

- (37) (amip) ku-yasa
着物 1SG. SUBJ.-裂く
「着物を私は裂いた」

yasa は紙にも使える。

- (38) kanpi hene ne yakka a-yasa
紙 でも である ても INDEF. TR. SUBJ.-裂く
「人は紙もまた裂く」

- (39) tan kanpi anakne ironne wa ku-yasa rusuy korka
この 紙 は 厚い て 1SG. SUBJ.-裂く たい けれど
ironne p ne kusu ku-yasa eaykap
厚い もの である ので 1SG. SUBJ.-裂く できない
「この紙は厚くて破りたいけれど厚いものだから破けない」

yasa は魚の腹を割く時にも使う。

- (40) ku-peray wa poronno pon ceppo ne yakka
1SG. SUBJ.-釣る て たくさん 小 魚 である ても
ku-kor wa ku-iwak wa opitta honihi
1SG. SUBJ.-持つ て 1SG. SUBJ.-帰る て 皆 腹
ku-yasa wa ku-ma wa k-e
1SG. SUBJ.-裂く て 1SG. SUBJ.-焼く て 1SG. SUBJ.-食べる
「私は釣りをしてたくさん小魚でも持ち帰って皆腹を割いて焼いて食
べた」

着物が破れる、という場合には、perke を使う。

- (41) perke amip e-mi wa e-an. hunna yasa?
破れた 着物 2 SG.SUBJ.-着る て 2 SG.SUBJ.-いる 誰 破る
「破れた着物をお前は着ている。誰が破いたか。」

着物が破れる、には、yaske よりも perke の方がよい。

- (42) (amip) yaske akkari perke sekon ne yakun pirka kuni
 着物 破れる より 破れる と である なら よい べき
 pekor ku-yaynu
 ように 1SG. SUBJ.-思う
 「着物が yaske より perke という方がきつといいように私は思う」

紙が破れる, には perke とは言わない。yaske という。

- (43) kanpi yaske wa tup ne wa reraparu wa isam
 紙 破れる て 二つ になる て 風で飛ばされる て しまう
 「紙が破れて二つになって風で飛ばされてしまった」

紙が破れる, は soske ともいう⁴⁾。

- (44) mak ne hine kanpi tup ne soske wa an
 どう である て 紙 二つ に 破れる て いる
 「どうして紙が二つに破れているか」

soske は, 着物に使うと, 「脱いである」という意味になる。

- (45) amip soske wa an sekor anakne use a-anu wa
 着物 脱ぐ て ある と は ただ INDEF. TR. SUBJ.-置く て
 an sekon ne yakka pirka
 ある と である ても いい
 「着物を soske してあるというのは, use anu と言ってもよい」

着物が破れる, には petke も使える。着物がぼろぼろに破ける, は petpetke という。

- (46) ponno petke wa an na. use anu. k-utapke na
少し 破ける て ある よ ただ 置く 1SG. SUBJ.-つぎを当てるよ
「少し破けているよ。脱げ。つぎをあてるよ。」

soso は紙を「はぐっていく」ことだ。「とる」ことを soso という。

- (47) sinep sinep a-soso
一つ 一つ INDEF. TR. SUBJ.-はぐる
「一枚一枚人がはぎとる」

soso は、着物の場合には「脱ぐ」という意味になる。

- (48) sirseseke na. soso yan.
暑い よ 脱ぐ なさい
「暑いよ。着物を脱ぎなさい」

爪、お椀が割れる、という場合には、yaske を使う。これらに対して perke は使えない。

- (49) k-amihi tup ne yaske wa kem cik kor an
1SG. SUBJ.-爪 二つ に 割れる て 血 垂れる つつ ある
「私の爪が二つに割れて血が滴っている」

- (50) itanki anakne husko kor yaske
お椀 は 古い と 割れる
「お椀は古くなると割れる」

舟が砕ける、という場合にも yaske という。

- (51) cip pira or un tomoosma wa cip yaske

舟 崖 所へぶつかる て 舟 砕ける

「舟が崖にぶつかって砕けた」

板を割るは, perpa とも yasa とも言える。板が割れるは, yaske を使うが, perke とは言わない。

- (52) ita tup ne ku-perpa

板 二つ に 1SG. SUBJ.-割る

「板を二つに私は割った」

- (53) ita tup ne ku-yasa

板 二つ に 1SG. SUBJ.-割る

「板を私は二つに割った」

- (54) ita yaske wa an

板 割れる て いる

「板が割れている」

- * (55) ita perke wa an

お椀を割る, という場合には yasa を使う。

- (56) ku-yayesanpepokas i kusu k-ani wa

1SG. SUBJ.-胸糞が悪い こと ので 1SG. SUBJ.-持つ て

k-an itanki k-eyapkir wa ku-yasa

1SG. SUBJ.-いる お椀 1SG. SUBJ.-投げる て 1SG. SUBJ.-割る

「胸糞が悪かったので持っていたお椀を投げて私は割った」

ひびが入る，は，次のようにいう。

(57) yaske noyne an

割れる よう ある

「ひびが入っている（割れている）」

(58) apto as ka somo ki p ne kusu toy ne yakka toy

雨 降る も ない する もの である から 畑 である ても 畑

yaskeyaske wa an

割れる て いる

「雨が降らないものだから畑もひび割れている」

次のようにいうと，割れてしまったことを表す。

(59) yaske wa an

割れる て いる

「割れている」

以上から，perpa も yasa も物体に打撃もしくは両端から反対方向へ力を加えて分割することを表すが (52)，(53)参照)，perpa には「ある程度の固さを有している物体の原型を失わせる」という含意があるようである (26)参照)。従って，通常，そのような目的で扱うことがない食物に対しては使いづらい，ということではないかと思われる (30)参照)。衣類の場合に perpa が使われないのは「固い物」という特徴に関して不一致を起こすためと考えられる (37)参照)。注目されるのは perpa に対応する自動詞形である，同じく per- という語根から派生した自動詞 perke が，固い物体に対して用いられる他動詞の perpa とは逆に，もっぱら衣服に関して用いられる，という点である (41)参照)。形態的には対応する自動詞と他動詞が，意味の面では大きく異なっている例として注目される。perpa，perke の用法が制限されているのに比べ，

yasá, yaske はそのような制限が少なく、「割る、割れる」、「裂く、裂ける」、「破る、破れる」に対応するような、かなり広い範囲の領域をカバーしていると言える（ただし、前述の如く、衣服に関しては yaske でなく、もっぱら perke が用いられる）⁵⁾。一方, soso, soske は、「意図的な手段によっては完全には互いに固定されていない重なり合った薄い物体同士を(が)分離する」と一応定義できる ((30), (33), (35), (37), (43), (49), (50), (53)参照)。これに対し, mesu は、「意図的な手段によって固定された物体同士を分離する」という意義を有すると仮定する ((21), (22)参照)⁶⁾。

3. 「倒れる」と horak, hokus など

はしごが倒れる, という場合には hokus という。horak も似た意味だが, この場合はおかしい。

- (60) nikar hokus (*horak)

梯子 倒れる

「梯子が倒れた」

立木が倒れた, という場合には horak という。この場合は hokus も使える。

- (61) ni horak wa an (hokus wa an)

木 倒れる て いる

「木が倒れている」

手で押して, 木を倒した場合には hokus という。

- (62) k-oputuye wa ni hokus

1SG. SUBJ.-押す て 木 倒れる

「木を押して私は倒した」

ちなみに、熊が木を倒した、という時は *hokuste* という。この場合、*horakte* はおかしい。

- (63) kamuy iruska wa ni koterke wa hokuste okake an
 熊 怒る て 木 飛びかかる て 倒す 跡 ある
 「熊が怒って木に飛びかかって倒してしまった。」

なお、すもうをとって人を倒した時も、hokuste という。

- (64) ukoterke-an wa sinen
すもうをとる-INDEF.INTR. SUBJ. て 一人
a-hokuste
INDEF. TR. SUBJ.-倒す
「すもうをとって一人倒された。」

風で木が倒れたという場合は horak という。

- (65) numan rera ruy pe ne kusu ni horak
昨日 風 吹くものである ので 木 倒れる
「昨日風が吹いたものだから木が倒れた。」

家が倒れた、という時には hokus とは言わない。horak だ。hokus でもいいが、horak の方がよいと思う。お椀が倒れたという時は、horak はおかしい。hokus ならわかる。

人が倒れる，という時は，hokus という。

- (66) tun ne wa hokus wa oka
二人であるて 倒れるて いる

「二人で倒れていた」

人が倒れることを *turse* ともいえる。木が倒れることは *turse* とは言わない。その場合は *horak* という。また、人が倒れることを *horak* とは言わないようだ。*turse* の方がよい⁷⁾。

(67) *toan hekaci sinki wa upsino turse (horak?)*

あの 男の子 疲れる て うつ伏せに 倒れる

「あの男の子、疲れてうつ伏せに倒れた」

(68) *ni horak (*turse)*

タンスなどが倒れないようにする、というときは *hokus* を使う。

(69) *hokus noyne an kusu corpokke un nep ka anu yan*

倒れる よう ある ので 下 へ 何 か 置きなさい

「倒れそうだから下に何か置きなさい」

舟が転覆する時にも *hokus* という。

(70) *cip hokus anki na. pirkano monorok wa oka yan*

舟 転覆する かける よ よく 座る て いる なさい

「舟がひっくり返るよ。きちんと座っていなさい」

以上から、*hokus* は「対象の接地面が露出する」((60), (62), (66), (67)参照)と定義できる。これに対し、*horak* は「対象の垂直の状態を保とうとする力が対象自体の事情（老朽化等）によって弱化して自らを支え切れなくなるか、あるいはそのような状態にある時に外部からの作用がきっかけとなって、自発的にその最高点が、通常的位置よりもずっと低い位置（通常は地面）へ変

化する」のように概略定義できる ((63), (65)参照)。

4. 「引く」, 「引きずる」, 「のばす」などと etaye, ninpa, turi など

「引きずる」は ninpa (重複形 ninpaninpa) という⁸⁾。

- (71) ku-sikehe ku-ninpaninpa wa ku-rura
 1SG. SUBJ.-荷物 1SG. SUBJ.-引きずる て 1SG. SUBJ.-運ぶ
 「荷物を引きずって私は運んだ」

- (72) ehorkano worosma wa an kur a-ninpa wa
 逆さまに 水に落ちる て いる 人 INDEF. TR. SUBJ.-引きずる て
 a-yanke
 INDEF. TR. SUBJ.-上げた
 「逆さまに水に落ちた人を人は引きずって上げた」

リヤカー, そり, 犬等についても ninpa という。

- (73) riyaka ku-ninpa wa k-arpa
 リヤカー 1SG. SUBJ.-引く て 1SG. SUBJ.-行く
 「リヤカーを私は引っ張って行った」

- (74) sori ne yakka at a-kote wa
 そり である ても 紐 INDEF. TR. SUBJ.-結ぶ て
 a-ninpa
 INDEF. TR. SUBJ.-引きずる
 「そりでも紐を結んで人は引っ張る」

- (75) seta at a-kote wa a-ninpa
犬 紐 INDEF. TR. SUBJ.-結ぶ て INDEF. TR. SUBJ.-ひっぱる
「人は犬に紐を結んで引っ張る」

着物を引っ張る、は、turituri (turi の重複形) という。

- (76) tusaha ku-kisma wa ku-turituri wa
袖 1SG. SUBJ.-つかむ て 1SG. SUBJ.-引っ張る て
ku-tura wa k-ek
1SG. SUBJ.-連れる て 1SG. SUBJ.-来る
「袖をつかんで引っ張って私は連れて来た。」

手を伸ばす, は turi, または turiri (turi の部分重複形) という⁹⁾。

- (77) ku-teke ku-turi wa moma k-uk
1SG. SUBJ.-手 1SG. SUBJ.-伸ばす て 李 1SG. SUBJ.-取る
kusu ne korka keweri wa k-uk eaykap
つもり である けれど 高く て 1SG. SUBJ.-取る できない
「李を私が取ろうとしたが、高くて取れなかった」

- (78) e-teke turiri (turi とも)
2SG. SUBJ.-手 伸ばす
「お前の手を伸ばせ」

物干しのひも、アツシ織の糸をたるまないように引っ張る、は turi または turiri という。

- (79) ukonoyke wa an na. pirkano turi
 たるむ て ある よ よく 伸ばせ

「たるんでいるよ。よく引っ張れ」

- (80) utaspa etaye wa pirkano turiri yan

互い 引く て よく 伸ばす なさい

「互いに引いてよく伸ばしなさい」

- (81) atturi-an

kor

オヒョウニレの樹皮糸を伸ばす-INDEF.INTR. SUBJ. ならば

pirkano turiri yan turiri-an somo ki

よく 伸ばす なさい 伸ばす-INDEF.INTR. SUBJ. ない する

yakun ukokomo nankon na

ならば からむ だろう よ

「樹皮糸伸ばすならよく伸ばしなさい。伸ばさないとからまってしまうよ」

- (82) pirkano ku-turi a korka, arsuy ne

よく 1SG. SUBJ.-伸ばす た けれど 一度 に

ku-turi hi wen wa “na suy turiri wa

1SG. SUBJ.-伸ばす こと 悪いて もう また 伸ばす て

en-kore yan” sekor a-en-ye

1SG.OBJ.-くれる なさい と INDEF. TR. SUBJ.-1SG.OBJ.-言う

「よく私は伸ばしたけれど一度では伸ばすやり方が悪くて、もう一回伸ばしてください、と言われた」

まくった袖を下ろす、という時にも turi という。

- (83) e-komo tusa turi

2SG. SUBJ.-折り畳む 袖 伸ばす

「まくった袖を下ろせ」

ひも、糸等を引っ張るは、etaye という。

- (84) horikasi racitke wa an pe a-etaye
 上から 下がる て いる もの INDEF. TR. SUBJ.-引く
 「上から下がっているものを人が引っ張る」
- (85) a-etaye akusu tus tuy
 INDEF. TR. SUBJ.-引く と 紐 切れる
 「人が引くと紐が切れた」
- (86) eytasa a-etaye wa kusu kut tuy
 あまり INDEF. TR. SUBJ.-引く て ので 帯 切れる
 「あまり人が引っばったので帯が切れた」
- (87) a-etaye yakka noynoyke wa an pe ne
 INDEF. TR. SUBJ.-引く ても からまる て ある もの である
 kusu a-etaye eaykap
 ので INDEF. TR. SUBJ.-引く できない
 「人が引っ張ってもからまっているものだから引き抜けない」
- (88) cep eokok wa ne noyne nuyto etaye hum as
 魚 かかる て である ように 糸 引く 音 する
 「魚がかかっているように糸を引いている様子だ」
- 着物、髪を引っ張る、は etaye という。
- (89) hekattar mi p k-etaye akusu perke
 子供達 着る もの 1SG. SUBJ.-引く と 破れる
 「子供達が着ているものを私が引っ張ると破れた」

- (90) otopihi a-etaye akusu iruska

髪の毛 INDEF. TR. SUBJ.-引く と 怒る

「髪の毛を人が引っ張ると怒る」

地面に埋まっているものを引き抜く、も etaye という。

- (91) turep k-etaye kusu ne akusu osirkotuk

ウバユリ 1SG. SUBJ.-引く つもり であると 根が張っている

「ウバユリを私が引き抜こうとすると根が張っていて抜けなかった」

- (92) daikon etaye wa kor wa ek

大根 引く て 持つ て 来る

「大根を抜いて持ってこい」

敷物の両端を引っ張ることも etaye という。

- (93) soho a-kar wa an pe pirkano

座 INDEF. TR. SUBJ.-作る て ある もの よく

a-etaye wa soho a-kar

INDEF. TR. SUBJ.-引く て 座 INDEF. TR. SUBJ.-作る

「敷物を人はよく引っ張って敷く」

以上から、ninpa は、「基準面に接地した物体を、手前に力を加え、基準面に沿って長い距離を移動させる」(71), (72), (73参照), turi は、「物体を直線状または平面状にするために一端または両端から力を加える」(82), (93参照) という意義と、「一端または両端から力を加えて物体を直線状または平面状にする」(79), (80), (83参照) という意義を有し、etaye は、「物体に手前に力を加える」(89参照) という意義と、「基準面の中に入り込んでいる物体を基準面から分離させる」(92参照) という二つの意義を有する、と仮定する。

5. 「持つ」と kor, ani など

傘を持ってくる、という時には kor という。kor wa ek は「持って来い」という意味になる。

- (94) kasa ku-kor wa k-ek ka somo ki a
傘 1SG. SUBJ.-持つ 1SG. SUBJ.-来る も ない する た
p apto ruy wa ku-peposo
もの 雨 降る 1SG. SUBJ.-ずぶぬれになる
「傘を私は持って来なかったのに、雨が降ってずぶぬれになった」

魚を持って行く、にも kor を使う

- (95) cep hene nep ne yakka e-kor rusuy pe kor wa
魚 でも 何 である ても 2SG. SUBJ.-持つ たい もの 持つ て
arpa
行く
「魚でも何でも欲しいものを持って行け」

犬が物をくわえて持って来るのにも kor を使う。

- (96) ku-kor poyseta hinak wa ka icen pa wa
1SG. SUBJ.-持つ 子犬 どこ から か お金 見つける て
ekupa wa kor wa ek
くわえる て 持つ て 来る
「私の子犬はどこからかお金を見つけてくわえて持って来た」

荷物を運んで来い、という時には rura というが、紙を一枚持って来い、と

いう場合には kor を使う。rura はおかしい。重いものを運んで来るみたいだから。また、ani を使ってもおかしい。ani は「重い物をたなく（手で持つ）」という意味になるから。

- (97) kanpi sine sos kor wa ek (*rura wa ek, *ani wa ek)

紙 一つ枚 持つて 来る

「紙を一枚持って来い」

座布団を持って来い、という時には、kor を使う。ani は使わない。

- (98) zabuton kor wa ek wa sokar

座布団 持つて 来る て 敷く

「座布団を持って来て敷け」

水樽を持って来るという場合にも kor を使う。

- (99) wakkaontaro kor wa ek

水樽 持つて 来る

「水樽持って来い」

ani は、遠くにあるものを持って来る時に使うのではないか。近くにある物なら kor wa ek だ。隣の部屋から持って来るような場合でも kor wa ek だ。

- (100) tuymano an pe ani wa ek

遠くに あるもの 持つて 来る

「遠くにあるものを持って来い」

外から薪を持って来るのには ani が使える。

- (101) osoyne sine cikuni ani wa ek
外から 一つ 薪 持つ て 来る
「外から一本薪を持って来い」

隣の家から物を持って来る場合でも kor というが、ござの場合は ani でもいい。

- (102) oawne citarpe ku-kor wa k-ek (ani wa ek)
隣から ござ 1SG. SUBJ.-持つ て 1SG. SUBJ.-来る
「隣からござを一枚私は持って来た」

隣の家から米俵を持って来る時は、kor といい、ani とは言わないようだ。rura とは言える。

- (103) oawne amam tawara kor wa ek
隣から 米 俵 持つ て 来る
「隣から米俵持って来い」

軽い物なら ani と言えるが、重い物は se 「背負う」するだろう。

- (104) kosne p ne yakun ani wa ek sekon ne korka, pase p
軽い 物 である ならば 持つ て 来ると である けれど 重い 物
ne yakun se wa ek
である ならば 背負う て 来る
「軽い物なら持って来ると言うけれど、重い物なら背負って来る」

- (105) oawne sinep soso wa kor wa ek (ani wa ek でもいい)
隣から 一枚 はぐ て 持つ て 来る
「隣から紙を一枚はいで持って来い」

手に持っていることは ani wa an だ。kor wa an でもいいけど、手に持っているのなら ani wa an だ。

- (106) askepet ani pirkano yupupu wa ani wa an
 指 で よく 締める て 持つ て いる
 「指でしっかりつかんで持っている」

片手で持つ場合でも ani が使える。

- (107) oattek ani nep ka ani wa an
 片手 で 何 か 持つ て いる
 「片手で何か持っている」

- (108) hemanta e-ani wa e-an? mannenhicu
 何 2SG. SUBJ.-持つ て 2SG. SUBJ.-いる 万年筆
 sekor a-ye p k-ani wa
 と INDEF. TR. SUBJ.-言う もの 1SG. SUBJ.-持つ て
 k-an ruwe ne wa
 1SG. SUBJ.-いる の である よ
 「何を持っているのか」
 「万年筆というものを持っているんだよ」

kor は、所有の意味の他に、具体的な動作を表す動詞としては「物体を携帯している状態」を意味するが、その物体の軽重、大小、携帯の様態（片手か両手によるか、口か等）は問わない、一般的な意義を有する語である。これに対し、ani は、手が使われる、という特徴を有するようである。ani に関する話者の報告は矛盾している点があり、対象を重い物とする、と報告する一方で(97)参照)、軽い物でなければならないとも述べており((104), (105)参照)、一致しない。あるいは、ani には、「対象が比較的重いか、対象を携帯してい

る持続時間が比較的長いことによって、手にかかる負担が比較的大きい」(97)と(105)を比較)という含意がある可能性もあるが、なお調査を要する。

6. おわりに

本稿で取り扱った沙流方言は、最近、あいついで大部の素晴らしい辞書(萱野 1996, 田村 1996)が出版されていることからわかるように、アイヌ語諸方言の中でも最もよく研究されている方言と言える。しかし、ひとつひとつの語義については、未解決な問題が多々残されており、本稿で扱った語義も、これらの先行研究ではほとんど、あるいは全く十分な説明がなされていないと言える。これらの先行研究を無批判に終着点とみなすよりもむしろ出発点として、今後も研究を深める余地がまだまだあると思われる。本稿はこうした研究上の「すきま」を埋めることを意図したものである。

略号

1	1 人称	INDEF	不定人称 ¹⁰⁾	SG	単数
2	2 人称	INTR	自動詞	SUBJ	主格
		OBJ	目的格	TR	他動詞

註

- 1) 「」は原則として話者による意味の説明の中で重要と思われる箇所に用いた(ただし、誤解の恐れのない場合には仮説的な意味や、概略的にアイヌ語の単語に該当すると思われる日本語の単語に対して付すことがある)。これに対し、筆者が仮に付けた訳語は () でくくって区別した。
- 2) puni と tarara の意義の差については未調査。
- 3) 調査の結果、表面と表面、裏面と裏面という場合も含まれることがわかった。なお、「畳む」には ukokomo, ukomuye 等もあるが、相互の差異については未調査。
- 4) この意味はうまく説明できていない。要調査。

- 5) yasa はかぼちゃにも使える。したがって、包丁のような刃物による分割にも使える可能性があるが、その場合、「切る」を意味する動詞との違いが問題となろう。また、「完全な分割」が yasa, yaske の弁別的特徴と言えるかどうか、問題もある。これらが単独で、「ひびを入れる」、「ひびが入る」という意味で用いることができる可能性もある。
- 6) meske という形式があると思われるが、未調査。
- 7) turse は、人間に限られるようであるが、運動中か、静止中かという区別(門脇誠一氏による)の可能性もある。また turse は「落ちる」、「倒れる」どちらの意味でも使えるので、「対象自体、あるいは対象の最高点が、高い位置から低い位置(通常は地面)へと変化する」のように定義できるかもしれないが、なお検討が必要である。
- 8) 重複形の場合、動作の反復を意味するようであるが、なお検討を要する。
- 9) turi と turiri の違いは要調査。
- 10) 不定人称は、文脈によって、「人が」、「我々が」などと訳せる。また、受け身の意味にもなる。

参 考 文 献

- 服部四郎. 1964. 『アイヌ語方言辞典』. 東京: 岩波書店.
- . 1968. 『英語基礎語彙の研究』. 東京: 三省堂.
- . 1969. 「アイヌ語の《大》《小》《太》《細》等々を表す“形容詞”」.
『国語研究』 28.
- . 1971. 「アイヌ語の《熱》《温》《冷》《寒》などを表わす“形容詞”」.
『金田一博士米寿記念論集』. 東京: 三省堂. 805-20.
- 萱野 茂. ———. 『萱野茂のアイヌ語辞典』. 東京: 三省堂.
- 国広哲弥. 1982. 『意味論の方法』. 東京. 大修館書店.
- 佐藤知己. 1996. 「アイヌ語のいくつかの基礎語彙の意味について(1)」.
『北海道大学文学部紀要』 45-1. 北海道大学文学部. 3-20.
- 田村すゞ子. 1996. 『アイヌ語沙流方言辞典』. 東京: 草風館.